

(様式 3-1)

平成 29 年度 プロジェクト研究費研究実績報告書

平成 30 年 5 月 6 日

代表者 石川 敬史

研究課題名	日常生活に埋め込まれた「働く自動車」の解読
研究期間	平成 29 年 6 月 1 日 ~ 平成 30 年 3 月 31 日
共同研究者	安達一寿
1. 今年度の研究概要	
<p>移動販売車に代表される「働く自動車」は、地域に何を運び、住民に何を届けているのであろうか。近年は地方の過疎化が加速し、都市部においても高齢者が増加している。また、人口の減少を背景に公共施設の廃止と再編・合築が進行している。加齢による身体的な障害や、生活の足となる公共交通の衰退によって、住民の移動が困難となり、コミュニティバスの運行とともに、各地で定時性と集客性を有する多様な「働く自動車」が巡回している。</p> <p>本研究では、こうした営利を目的としない「働く自動車」を幅広く研究対象とし、現地訪問調査に基づきながら、巡回開始の経緯、車両の開発方法をはじめ、巡回の方法やルート、商品（積載物）の選択、担当者の力量形成など、「働く自動車」の運営上の特徴や課題を分析した。同時に、「働く自動車」を運行する者と地域住民（利用者）の会話（言葉）を分析することによって、建物の「店舗」で交わされる言葉とは異なる共通言語を考察した。こうした考察から、「働く自動車」による特定の役割や機能が地域住民の足元の日常生活に浸透する意味を実証的に明らかにし、地域に埋め込まれる「働く自動車」の位置と自治や協同との関係性を考察した。</p> <p>具体的な研究対象（実地調査対象先）としては、移動販売車（カスミ株式会社、とくし丸）、移動銀行窓口車（JA 佐野、JA 利根沼田）、移動水族館車（葛西臨海水族園、アクアマリン福島）、移動美容容車（シルバーサポート）、移動天文台車（小山市立博物館）、移動博物館車（兵庫県立人と自然の博物館、神戸市立博物館）、空とぶ図書館（沖縄県立図書館）、移動児童館車（大阪府立大型児童館、平成エンタープライズ）、特種用途自動車工場（中北車体工作所、林田製作所）等である。</p>	
2. 研究の成果	
<p>本研究の成果について、本研究代表者によるこれまでの移動図書館実態調査なども踏まえながら実地調査に基づき、地域を走る「働く自動車」の特徴や意義を考察すると、次の 4 点に整理することができる（『情報の科学と技術』68(1),2018.1,p.8-13 にて発表済の内容）。</p> <p>(1) メディアとしての自動車</p> <p>自動車（特種用途自動車）への装備内容や活動方法に、運用機関（施設等）の目指すべき姿が体现されていた。自動車へのラッピングや愛称も含め、地域のシンボリック的存在として位置し、「働く自動車」の活動風景全体に社会に対するメッセージ性が内在していることがわかる。</p> <p>(2) 想いを運ぶ自動車</p> <p>「働く自動車」の現場には活動に携わる全ての人々の活力や信念に触れることができる。担当者の人生や価値観（経験、成功、失敗、転職等）を背負いながら、内に秘めた信念が内在していた。</p> <p>(3) 地域に「時計」になる自動車</p> <p>定時性を有する「働く自動車」には、地域住民一人ひとりの足元の日常生活に深く浸透していた。日常生活の「時計」であり戦後期のラジオ放送と同時に、地域社会をつくる「時計」もあった。</p> <p>(4) 境界を越える自動車</p> <p>「働く自動車」は移動できるため、自治体の行政域や地理的に固定化されることはない。そのため、活動する現場における制約（積載量、時間、場所等）も含め、制度や政策（規制）をどのように克服するのか（協定や連携、協働など）、という知恵や洞察力が内在していることがわかった。</p>	

3. 研究成果の公表実績・予定（年月日、方法）

本研究の成果については、以下の通りである。なお、予算削減の関係から、自費にて研究した内容も含まれている。

（1）論文・記事

・石川敬史「はたらく自動車の序論的解説：移動図書館を中心に『情報の科学と技術』68(1),2018.1,p.8-13.

（2）発表・講演等

・石川敬史「(話題提供) どこへ何を運ぶ? : 移動図書館と情報リテラシー」第22回図書館利用教育実践セミナーin 東京, 2018年3月11日

・石川敬史「うごく図書館」埼玉県立朝霞西高等学校図書委員会合同ワークショップ, 2017年11月21日

・安達一寿, 石川敬史, 日本教育情報学会第33回年会発表, 「情報リテラシーの理念が埋め込まれた公立図書館活動の考察」ほか, 2017年8月27日

・石川敬史「移動図書館, どうする? どうなる?」図書館問題研究会第64回全国大会, テーマ別交流会第4分科会, 2017年6月26日

（3）連載記事（石川敬史『うごく・あそぶ』郵研社）

・「「あそびばす」という時計」2018年2月

・「うごく移動児童館の「芯」」2018年2月

・「水族をして語らしめる」2018年1月

・「移動水族館という動く「教室」」2017年12月

・「博物館の「表現車」」2017年11月

・「夢を運んでいるんだよね!」2017年10月

・「時空を越えて走り続ける」2017年10月

・「空を眺める一体感を育む」2017年9月

・時代の変化に流されない表現者集団」2017年8月

・「知恵と技術を編む」2017年8月

・「「自分らしく生きる」交差点」2017年7月

・「移動美容車を背負う」2017年7月

・「地域と歩く「金融店舗」」2017年6月

・「標準から個性へ」2017年6月

（4）予定

・2018年8月の日本教育情報学会にて発表（予定）

・連載記事について、郵研社より図書の刊行（予定）